

Tivoli. software

Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1

Unofficial Installation Guide



© 2010 SRCHACK.ORG



本資料について

 IBMのシングルサインオン製品「Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1」の導入手順を、srchack.orgにて独自に記載したものであり、記載 内容での導入手順を保障するものではありません。 srchack.orgは、利用者がこれらの情報を用いて行う一切の行為について何ら責

任を追うものではありません。

• 2010/05/21に記載内容の修正を実施しております。



動作確認環境

- Windows Server 2003 Enterprise Edition
 - ServicePack2 (2009/11/30までのFix適用済)
- Tivoli Access Manager for Enterprise Single Sign-On v8.1
- WebSphere Application Server Network Deployment V7.0
 FixPack7
- IBM HTTP Server V7.0
 - FixPack7
- IBM DB2 9.7 Workgroup Server Edition
 - FixPack1
- VMware Server 1.0.9
 - Athlon 64 3500+
 - 2GB Memory





DB2導入

• DB2 9.7 FixPack1のインストールウィザードを起動します。







以下の画面が表示されます。「製品のインストール」をクリックしてください。Workgroup Server Editionを選択(同梱ライセンス)





• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。







• 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。

🤯 DB2 セットアップ - DB2 Workgroup Server Edition - DB2COPY1
ソフトウェア・ライセンス情報
以下の使用条件をよくお読みください。
重要です:注意してお読みください。
2 つの使用許諾契約が、下記に提示されます。
1. IBM プログラム評価のご使用条件 2. IBM プログラムのご使用条件
お客様が生産的使用(評価、テスト、試行、「試行または購入」もしくはデモンストレーション以外)を目的に「プロ グラム」を取得する場合は、下記の「同意する」をクリックすることにより、そのまま IBM プログラムのご 使用条件 に同意するものとします。
お客様が評価、テスト、試行、「試行または購入」もしくはデモンストレーション(以下「評価」と総称します。)を目 的として「プログラム」を取得する場合は、下記の「同意する」をクリックすることにより、お客様は()IBMプログラ Lister のでは思えた(以て「読んにしませ、、たいただく)、IPM プログラムのでは思えた。(以下
IBM 以外の第三者の(以下「第三者」といいます)提示条件をお読みください。
 ○ 使用条件の条項に同意します。(A) ○ 使用条件の条項に同意しません。(D)
Install5hield
<u>V</u> iew in English 印刷 (P) < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル





以下の画面が表示されます。「標準」インストールタイプを選択して「次 へ」をクリックします。

👹 DB2 セ:	ットアップ - DB2 Work	roup Server Edition - DB2COPY1		
インス	トール・タイプの選打			
C	標準(<u>I</u>):	希句 900 - 1300 MB		
0	コンパクト(<u>C</u>):	約 800 - 1100 MB		
0	カスタム(<u>U</u>):	約 600 - 1700 MB		
	(ンストール・タイプに関す: 標準セットアップには、: ーと機能が含まれます アプリケーション開発用 「カスタム」をクリックして	情報 5本のデータベース・サーバー機能、データベー; Dフィーチャーおよび他のオプション機能を、セッ ださい。	ス管理ツール、および大半の製品フィーチャ トアップ処理の後の部分で追加するには、	
			フィーチャーの表示(⊻)	
InstallShield				
		<戻る(B)次	へ(N)> キャンセル へ	ルプ





以下の画面が表示されます。応答ファイルは保存せずに以下のラジオボタンを選択して「次へ」進みます。

DI 後 こ	32 セットアップ・ウィザードでは、このコンピューターに DB2 Workgroup Server Edition をインストールするか、 そでこの製品をコンピューターにインストールするために応答ファイルを作成するか、またはその両方を選択する とができます。
	DB2 Workgroup Server Edition をこのコンピューターにインストールする(1)
	○ インストール設定を応答ファイルに保管する(5)
	このコンピューターにソフトウェアはインストールされません。
	○ このコンピューター(こ DB2 Workgroup Server Edition をインストールし、設定を応答ファイルに保管 する(A)





• 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。

╔ DB2 セットアップ - DB2 Workgroup Server Edition - DB2COPY1	
インストール・フォルダーの選択	
DB2 セットアップ・ウィザードは次のフォルダーに DB2 Workgroup Server Edition をインストールします。 別 には、「変更」をクリックするか、またはディレクトリーを入力してください。	リのフォルダーを選択する
ディレクトリー C:¥IBM¥SQLLIB¥	変更(<u>C</u>)
必要なスペース: 811 MB デ	[:] ィスク・スペース(<u>D</u>)
InstallShield	セル ヘルプ





• 以下の画面に示すようにDASで使用するユーザを指定してください。

👹 DB2 セットアップ – D	B2 Workgroup Server Edition	- DB2COPY1	<u> </u>
DB2 Administrat	ion Server のユーザー情報の	設定	
DB2 Administrati DAS (こ必要なユ)	on Server (DAS) がご使用のコンピュー ーザー情報を指定してください。	ターで実行され、DB2 ツールで必要なサポートを提供します。	
LocalSystem アカ お勧めします。話	ウントではなくローカル・ユーザー・アカウ 単しくは、「ヘルプ」をクリックしてください。	ントまたはドメイン・ユーザー・アカウントを使用することを強く	
 □-カル・ユ・ 	ーザー・アカウントまたはドメイン・ユーザ・	<u>アカウントの</u>	
	- ユーザー情報		
	ドメイン	なし - ローカル・ユーザー・アカウントを使用する	3 💌
	ユーザー名	db2admin	
	パスワード	****	
	パスワードの確認	*****	
C LocalSystem	י דאלי>ר(נ)		
▶ 同じアカウン	トを残りの DB2 サービスで使用する(<u>U</u>)		
InstallShield			
	< 戻る	5(B) 次へ(N) > キャンセル	∧ <i>\</i> IĴ





• 以下の画面でDB2のデフォルトインスタンス名を確認して、「次へ」進みま

o 🛃 DB2 번:	ットアップ - DB2 Workgroup Server Edition - DB2COPY1	_ 🗆 🗙
DB2	ンスタンスの構成	
ੀ ਭ	ンストール中に以下のインスタンスが作成されます。「構成」ボタンをクリックして、構成をカスタマイズすることができま 「。	
	DB2 インスタンス:	
	DB2 構成(<u>C</u>)	
	「インスタンスの説明」	
	デフォルト・インスタンスの DB2 はアプリケーション・データを保管します。	
InstallShield	< 戻る(B) 「次へ(N)>」 キャンセル /	





• 以下の画面でDB2のカタログを作成せずに「次へ」進みます。

🙀 DB2 セットアップ - DB2 Workgroup Serv	er Edition – DB2COPY1	_ 🗆 🗙
DB2 ツール・カタログを準備する		
DB2 ツール・カタログは、タスク・センターお を使用すると、バックアップなどの一般的な 保管する必要があります。	よびスケジューラーを使用するために作成する必要があります。こうしたツール &タスクをスケジュールできます。DB2 ツール・カタログは、DB2 データベース(こ	
□ DB2 ツール・カタログを準備する(P)		
インスタンス	DB2	
データベース		
⑥ 新規(E)	TOOLSDB	
€ 既存(凶)		
スキーマ		
€ 新規(<u>₩</u>)	SYSTOOLS	
C 既存(1)		
InstallShield		
	< 戻る(B) 次へ(<u>N</u>)> キャンセル へ、	ルプ





以下の画面で管理者への通知送信機能を使用しない選択を行い、「次 へ」進みます。

i骨DB2 セットアップ - DB2 Workgroup Server Edition - DB2COPY1	_
通知のセットアップ	
データベースに注意が必要なときに管理者にアラートを送るために、E メールやページャー (日本国内では機能しません) による通知を自動的に送信するように DB2 サーバーをセットアップすることができます。 連絡先情報は、管理連絡先リス トに保管されます。 これらの通知を送信するには、 非認証 SMTP サーバーが必要です。	
通知を送信するように DB2 サーバーを現時点でセットアップしない場合も、 ヘルス・アラートは管理通知ログに記録されます。	
□ 〕通知を送信するよう(こ DB2 サーバーをセットアップする(S)	
通知 SMTP サーバー	
「管理連絡先リスト・ロケーション」	
◎ ローカル - このコンピューター(ご連絡先リストを(作成する(L))	
○ リモート - 別の DB2 サーバーにある既存の連絡先リストを使用する(E)	
リモート DB2 サー/ドー	
Testal@bield	
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル へ	ルプ





以下の画面でオペレーティングシステム・セキュリティを使用しない選択 を行い、「次へ」進みます。

👹 DB2 セットアップ	- DB2 Workgroup Server	Edition - DB2COPY1	X
DB2 オブジェク	トのためにオペレーティング	ブ・システム・セキュリティーを使用可能にする	
コンピュータ キュリティー	ー上の DB2 オブジェクト (ファイル、 を使用可能にするかどうかを指定)	フォルダー、レジストリー・キーなど)のためにオペレーティング・システム・セ します。このセキュリティーを使用可能にすると、DB2 オブジェクトに対する	
オペレーティ	シグ・システム・アクセスは、 以下に	指定するグループに限定されます。	
- J까턳 🗆	-ティング・システム・セキュリティーを	:使用可能にする(E)	
L		ーサー・クルーンの指筆版は、「ヘルン」をクリックして「文用」できより。	
	DB2 管理者グループ ドメイン	なし - ローカル・グループを使用する	
	グループ名	DB2ADMNS	
	DB2 ユーザー・グループ		
	ドライン	なし - ローカル・グループを使用する 💌	
	グループ名	DB2USERS	
InstallShield			
		< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルブ	





• 以下の設定内容の確認画面を確認し、「インストール」をクリックします。

🖁 DB2 セットアップ – DB2 Workgroup Server Edition – DE	32COPY1	
ファイルのコピーの開始		
DB2 セットアップ・ウィザードでプログラム・ファイルのコピーを開始 たは変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。 設定が正 一を開始してください。	皆するのに十分な情報がそろいました。設定を検討、ま こしい場合は、「インストール」をクリックしてファイルのコピ	
現在の設定:		
インストールする製品: Edition = DB2COPV1	DB2 Workgroup Server	
インストール・タイプ:	標準	
DB2 コビー名:	DB2COPY1	
デフォルト DB2 コビーに設定:		
テフォルト IBM テータベース・クライ ビーに設定: はい	アント・インターフェース・コ	
nstall5hield		
< 戻る(B)		ヘルプ





以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(DB2の導入には数分 ~数十分程度かかります。)

@DB2 セットアップ - DB2 Workgroup Server Edition - DB2COPY1		
IBM.	セットアップ完了	
	DB2 セットアップ・ウィザードは、コンピューターへのファイルのコピーと、必要なシステム 構成タスクをすべて完了しました。現在システムで稼働中のすべてのソフトウェア・プ ログラムをシャットダウンしてください。プログラムは再始動され、DB2 が使用可能とな ります。インストール・Dグは C:¥Documents and Settings¥Administrator¥My Documents¥DB2L0G¥DB2-WSE-Thu Dec 03 21_29 02 2009.log にあります。すべ てのタスクが正常に完了したことをログ・ファイルで確認してください。	
	まだ完了していない場合、インストールの後にインストール後処理ステップを完了する ことをお勧めします。	
	必須ステップ:	
	ポート番号「50000」を使用して DB2 インスタン ス「DB2」に接続できます。将来の参照用に記録し ておいてください。 ▼	
	「次へ」をクリックすると、他の製品を追加インストールできます。	
	<u> </u>	





以下の画面で示された、オプションのインストールは行わずに「完了」します。※導入後Windows再起動を行います。(後々JDBCドライバ絡みの問題が発生する為)

🛃 DB2 セットアップ - DB2 Workgroup	Server Edition - DB2COPY1
IBM.	追加の製品のインストール
	対応する「インストール」ボタンをクリックすることにより、以下の製品をオプションでインスト ールすることができます。
	Visual Studio 用の IBM Database Add-in インストール(<u>s</u>)
	DB2 セットアップ・ウィザードを終了するには「完了」をクリックします。
	< 戻る(B)





IMSDB作成

「スタート」-「プログラム」-「IBM DB2」-「DB2 COPY1(デフォルト)」-「コマンド行ツール」-「コマンド・ウィンドウ」のメニューからDB2のコマンドウィンドウを起動します。

以下の手順に従いIMSが使用するDB2データベースを事前に作成します。

C:¥IBM¥SQLLIB¥BIN>cd c:¥

C:¥>db2 create database IMSDB automatic storage yes on 'C:¥' dbpath on 'C:¥' using codeset utf-8 territory us collate using system pagesize 8192 DB20000I CREATE DATABASE コマンドが正常に完了しました。

C:¥>db2 connect to IMSDB

データベース接続情報

データベース・サーバー SQL 許可 ID ローカル・データベース別名 = DB2/NT 9.7.1 = ADMINIST... = IMSDB

C:¥>db2 grant createtab, bindadd, connect on database to user db2admin DB20000I SQL コマンドが正常に完了しました。



WAS導入

• WebSphere Application Serverのインストールウィザードを起動します。





• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。







以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。







以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。







以下の画面が表示されます。サンプル・アプリケーションはインストールしない選択を行い、「次へ」をクリックします。

Maile MebSphere Application Server 7.0 オブション・フィーチャーのインストール インストールする IBM WebSphere Application Server Network Deployment フィーチャーを選択します。オブション・フィーチャーの詳細については、 WebSphere, software docs ディレクトリーの InstallGuide en.html ファイルを参照してください。 □ サンブル・アブリケーションをインストールする(S) ソース・コード・ファイルと、最新 Java (TM) Platform、Enterprise Edition (Java EE) および WebSphere テクノロジーをデモするエンタープライズ・ アブリケーションの両方がサンブルには含まれます。 サンブルは、開発環境 などの、学習環境やデモンストレーション環境へのインストールをお勧めし ます。しかし、実動アプリケーション・サーバー環境にインストールするこ とは推奨されていません。 ▼ 管理コンソール用に英語以外の言語バックをインストールする(1) 英語の言語ファイルのインストールに加えて、英語以外のロケールのマシン から管理コンソールを使用するために必要な、英語以外の言語ファイルをす べてインストールすることができます。 ▼ アブリケーション・サーバー・ランタイム環境用に英語以外の言語バック… 次へ(N) > < 戻る(B) 取り消し(C)





• 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。

🖞 IBM WebSphere Applie	cation Server 7.0
WebSphere, software	インストール・ディレクトリー IBM WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 7.01は、指定 されたディレクトリーにインストールされます。 別のディレクトリーを指定するか、「参照」をクリックして別のインストール・ロ ケーションを選択します。 製品インストール・ロケーション(P)・ C:\IBM\WebSphere\AppServer 参照(R)
InstallShield	< 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)





以下の画面が表示されます。「アプリケーション・サーバー」を選択し、「次 へ」をクリックします。

省 IBM WebSphere Applic	ation Server 7.0
BM WebSphere Applic	ation Server 7.0 WebSphere Application Server 環境 インストール中に作成する WebSphere Application Server 環境のタイプを選択します。 ます。選択できる環境タイプは1つだけですが、インストール後にプロファイル 管理ツールを使用して、追加のプロファイルを作成できます。 環境(E) セル (デプロイメント・マネージャーおよび管理対象ノード) 管理 アブリケーション・サーバー カスタム セキュア・プロキシー (構成のみ) なし
InstallShield	説明 スタンドアロンのアブリケーション・サーバー環境で、ご使用のエンターブラ イズ・アブリケーションを実行します。 アブリケーション・サーバーは、固有 の管理コンソールから管理されるため、他のすべてのアブリケーション・サー バーおよびデプロイメント・マネージャーから独立して機能します。 < 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)

. / . .



• 以下の画面に示すようにWASで使用するユーザを指定してください。

🖄 IBM WebSphere Applic	ation Server 7.0	
WebSphere software	管理セキュリティーを有効にする 管理セキュリティーを有効にするかどうかを選択します。セキュリティーを有効にするには、ユーザー名とパスワードを指定して管理ツールにログインします。 管理ユーザーは、Application Server内のリポジトリーに作成されます。インストールが終了すると、ユーザー、グルーブ、または外部リポジトリーをさらに追加できます。 ✓ 管理セキュリティーを有効にする(E) ユーザー名(U): wasadmin パスワード(P): ******** 管理セキュリティーの詳細については、インフォメーション・センターを参照してください。	
InstallShield	< 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)	





以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(WASの導入には数 分~数十分程度かかります。)







• 以下の画面で示された、「終了」します。







HIS導入

• IBM HTTP Serverのインストールウィザードを起動します。







• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

🗳 IBM HTTP Server 7.0	
	IBM HTTP Server 7.0 へようこそ
WebSphere, software	このウィザードは、ご使用のコンピューターに IBM HTTP Server 7.0 をインストール します。 このインストールについて詳しくは、「 <u>IBM HTTP Server 7.0 インストール・ガイド</u>
	「次へ」をクリックすると先に進みます。
InstallShield	
	< 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)





以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。





• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。





• 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。

BM HTTP Server 7.0		미지
WebSphere. software	▲ インストール・ロケーションを入力してください 製品インストール・ロケーション(P)* C:\\BM\\HTTPServer 参照(R)	
InstallShield		
	< 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)	



• 以下の画面に示すように使用するポートを指定してください。

Market BM HTTP Server 7.0			
WebSphere. software	ボート値の割り当て IBM HTTP Server よ、J トが IBM HTTP Server 合は、ポート番号をデ ^ー	以下に示すポート番号を使用して通信します。 これら または別のアプリケーションによって既に使用されて フォルト値から変更してください。	のポー いる場
Charter .	HTTP ポート(<u>P</u>):	80	
Ser.	HTTP 管理ポート(A):	8008	
InstallShield			
		<戻る(B) 次へ(N) > 取り消し)(C)





以下の画面に示すようにHIS Windowsサービスで使用するユーザを指定してください。

BIBM HTTP Server 7.0		
WebSphere, software	Windows サービスの定義 IBM HTTP Server および IBM HTTP 管理サーバーを実行するのに Windows ゼ ビスを使用するかどうかを選択します。 必要であれば IBM HTTP Server およ IBM HTTP 管理サーバーは、コマンド行から開始できます。 システムをリブ する際の Windows サービスの開始タイプ (手動または自動) も指定できます。	▲ サー たび 〜ト
	 ✓ IBM HTTP Server を Windows サービスとして実行する ✓ IBM HTTP 管理サーバーを Windows サービスとして実行する 	=
	 ローカル・システム・アカウントとしてログオンする 指定されたユーザー・アカウントとしてログオンする 	
	ユーザー治(D): Administrator パスワード(P): ・・・・・	
InstallShield		•
	< 戻る(B) 次へ(N) > 取り消し	L©


• 以下の画面に示すようにIHSで使用するユーザを指定してください。

BM HTTP Server 7.0	
Ubbe first Server 7.0 WebSphere software WebSphere software	HTTP 管理サーバー認証 WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して、IBM HTTP Server 管理 サーバーに対して認証するためのユーザー ID とパスワードを作成します。新しく 作成されたユーザー ID とパスワードは、暗号化されて、ファイル conf/admin. passwd IC保管されます。 htpasswd ユーティリティーを使用すると、インストー ル後に追加のユーザー ID を作成できます。 ✓ IBM HTTP Server の管理サーバー認証用にユーザー ID を作成する(E) ユーザーID(少): ihsadmin パスワード(D): 確認パスワード(O):
	<戻る(B) 次へ(N)> 取り消し(C)





以下の画面で連携するWebSphere定義を確認し、「次へ」進みます。

🔮 IBM HTTP Server 7.0	
WebSphere software WebSphere software WebSphere software	IBM HTTP Server Plug-in for IBM WebSphere Application Server リモート・インストール・シナリオを使用して、プラグインのサイレント・インス トールを行います。ホスト名および Web サーバー定義は、デフォルトのプラグイ ン構成ファイルの作成時に使用されます。このファイルは、要求のアプリケー ション・サーバーへの経路指定に使用されます。 複数のアプリケーション・サー バーがある場合、サーバーの1つを選択し、マシンのホスト名を指定します。 IBM HTTP Server Plug-in for IBM WebSphere Application Server を インストールする Web サーバー定義: webserver1 Application Server のホスト名または IP アドレス: esso81
	<戻る(B) 次へ(N) > 取り消し(C)





• 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。







• 以下の画面で示された、「終了」します。

BIBM HTTP Server 7.0	
H	正常終了:以下の製品が正常にインストールされました。
11	IBM HTTP Server - C:\IBM\HTTPServer
WebSphere, software	
	WebSphere Application Server 用 IBM HTTP Server プラグインは以下に正常にイン ストールされました:
	C:\IBM\HTTPServer\Plugins
	IBM HTTP Serverの構成と使用については、オンラインの <u>IBM HTTP Serverインフォ</u> <u>メーション・センター</u> を参照してください。
X	終了する場合は「 終了 」をクリックしてください。
InstallChield	
instaliometu	
	< 戻る(B) 次へ(N) > 終了(E)





WebSphereセキュリティ設定

• WebSphere管理コンソールを起動

🗿 Integrated Solutions Console – Microsoft Internet Explorer	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)	🥂 🕹 🕹 🕹 🖓
③ 戻る 🔹 🕥 💌 📓 🚮 🔎 検索 👷 お気に入り 🔗 😥 😓	
アドレス(1) 🕘 https://esso81:9043/ibm/console/logon.jsp	王 参称 リンク ※
Integrated Solutions Console	IBM. *
コンソールにログインします。 ユーザー ID: バスワード: ロガイン	
あ か ペーパゼキニキカキレ 1	
■ ハニン川家示されました	





グローバル・セキュリティ設定のアプリケーション・セキュリティを使用可 能に変更する





WebSphere FixPack適用

• WebSphere、IBM HTTP Server、PluginのFixPackを適用します。

-手順記載省略-





IMS Server導入

• IMS Serverのインストールウィザードを起動します。







• 以下の画面が表示されます。使用条件を確認し、「次へ」をクリックします。

🙆 TAM E-SSO IMS Server	
	ソフトウェア・ライセンス情報
 ご使用条件 概要 インストール・フォルダ サーバーの構成 ブリインストールのまとめ インストール インストールの完了 	以下の使用条件をよる読みください。 プログラムのご使用条件 第 1 章 - 共通条項 お客様がライセンシー(使用許諾を受けた個人、会社、その 他の法人)として本件プログラムをダウンロード、導入、複 製、アクセス、「同意」ボタンをクリック、または使用する ことにより、本「プログラムのご使用条件」(以下「本使用 条件」といいます。)に同意したものと見なされます。お客 様がライセンシーの代行者として本使用条件に同意する場 合、お客様は、ライセンシーに本使用条件を遵守させる全権 限を有していることを表明および(保証いただくものとしま)
InstallAnywhere キャンセル (C)	戻る (P) 次へ (N)





• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

🔮 TAM E-SSO IMS Server	
	概要
✓ ご使用条件 ▶ 概要	次の画面に進むには「次へ」をクリックします。 前の画面に戻るには「戻る」をクリックします。
 ▷ インストール・フォルダ ▷ サーバーの構成 ▷ プリインストールのまとめ ▷ インストール ▷ インストールの完了 	「キャンセル」をクリックすることにより、このインストールをいつでも停止できます。
InstallAnywhere キャンセル (C)	戻る (P) 次へ (N)





• 以下の画面で導入ディレクトリを確認し、「次へ」進みます。

🙆 TAM E-SSO IMS Server	
	インストール・フォルダーの選択
 ✓ ご使用条件 ✓ 概要 ▶ インストール・フォルダ ▶ サーバーの構成 	このインストールの宛先フォルダーを指定します。 C:¥IBM¥TAM E-SSO¥IMS Server デフォルトのフォルダに戻す (R) 選択… (0)
▶ プリインストールのまとめ ▶ インストール ▶ インストールの完了	
InstallAnywhere キャンセル (C)	戻る (P) 法へ (N)





以下の画面が表示されます。「デプロイする」を選択し、「次へ」をクリックします。

TAM E-SSO IMS Server	
インストーラーでI	MS Server を WebSphere Application Server にデプロイ
 ✓ ご使用条件 ✓ 概要 ✓ インストール・フォルダ ▶ サーバーの構成 	このインストーラーを使用して、IMS Server を WebSphere Application Server にデプロイしますか?
 > フリインストールのまどめ > インストール > インストールの完了 	 ● はい ○ いいえ
InstallAnywhere	
キャンセル (C)	戻る (P) 次へ (N)





• 以下の画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

🔮 TAM E-SSO IMS Server	
	WebSphere セキュリティー
 ✓ ご使用条件 ✓ 概要 ✓ インストール・フォルダ > サーバーの構成 > ブリインストールのまとめ > インストール > インストール > インストールの完了 	WebSphere Application Server で管理セキュリティーが有効になっていますか? © はい © いいえ
InstallAnywhere キャンセル (C)	戻る (P) 次へ (N)





• 以下の画面に示すように次ページ記載の一覧を元に指定してください。

🙆 TAM E-SSO IMS Server	
	WebSphere Application Server 管理セキュリティー情報
 ご使用条件 概要 インストール・フォルダ… サーバーの構成 ブリインストールのまとめ インストール… インストールの完了 	管理ユーザー名* wasadmin 管理パスワード* ********* SSLトラステッドJava 鍵ストア・ファイル* C*IBM¥WebSphere¥AppServer¥profiles¥AppSrv01¥config¥cells¥es: デフォルトに戻す 選択(の) SSLトラステッド鍵ストア・パスワード* ***** SSL Java 鍵ストア・ファイル C:¥IBM¥WebSphere¥AppServer¥profiles¥AppSrv01¥config¥cells¥es: デフォルトに戻す 選択(の) ▼
InstallAnywhere キャンセル (C)	戻る(P) 次へ(N)





- 管理ユーザー名:
 - wasadmin(WebSphere導入時選択)
- SSLトラステッドJava鍵ストア・ファイル:
 - «WebSphere Application Server installation folderȴAppServer¥profiles¥<profile name»¥config¥cells¥<cell nameȴnodes¥<node name>¥trust.p12
- SSLトラステッド鍵ストア・パスワード:
 - WebAS
- SSL Java鍵ストア・ファイル:
 - <WebSphere Application Server installation folder>¥AppServer¥profiles¥<profile name>¥config¥cells¥<cell name>¥nodes¥<node name>¥key.p12
- SSL鍵ストア・パスワード:
 - WebAS



以下の画面が表示されます。SOAPコネクター・ポートを指定し、「次へ」 をクリックします。

🙆 TAM E-SSO IMS Server	
	WebSphere Application Server 情報の指定
 くご使用条件 く 概要 ペインストール・フォルダ… サーバーの構成 ブリインストールのまとめ インストール… インストールの完了 	WebSphere Application Server SOAP コネクター・ポート * 8880
InstallAnywhere キャンセル (<u>C</u>)	戻る (P) 次へ (N)





• 以下の画面でモジュールの導入が開始されます。(IMS Serverの導入には数分~数十分程度かかります。)

🔮 TAM E-SSO IMS Server	
	プリインストールのまとめ
 ✓ ご使用条件 ✓ 概要 ✓ インストール・フォルダ ✓ サーバーの構成 > ブリインストールのまとめ > インストール > インストールの完了 	インストールを進める前に、次の内容を確認してください。 製品名: TAM E-SSO IMS Server インストール フォルダ: CMBMATAM E-SSOMMS Server バージョン: 8.1.0.0 ディスク容量情報 (インストール先): 必要なディスク容量: 309,627,357 バイト 使用可能なディスク容量: 12,575,842,304 バイト
InstallAnywhere キャンセル (<u>C</u>)	戻る (P) 「インストール (0)」



• 以下の画面で示された、「完了」します。

🔮 TAM E-SSO IMS Server	
	インストールの完了
 ご使用条件 概要 インストール・フォルダ サーバーの構成 ブリインストールのまとめ インストール インストールの完了 	TAM E-SSO IMS Server は正常に以下にインストールされました。 C:\IBM\TAM E-SSO\IMS Server インストール・プログラムを終了するには、「完了」をクリックし てください。
キャンセル (<u>C</u>)	戻る (2) 完了 (2)





IHS WebSphere連携

 configurewebserver1.batを「<IBM HTTP Server installation directory>¥Plugins¥bin」から「<WebSphere Application Server installation directory>¥bin」へコピーし実行し、以下画面でWebSphere管理ユーザ情 報を入力する。

ターゲット・サーバーでログインします			
次のログイン情報を入力してください - <default></default>			
レルム/セル名	<default></default>		
ユーザー ID	wasadmin		
ユーザー・パスワード	*****		
ОК	取り消し		





WebSphere設定

• WebSphere管理コンソールから、「サーバー」-「サーバー・タイプ」-「Web サーバー」を選択します。







•「リモートWebサーバー管理」を選択します。







IHS導入時に指定した管理ユーザー名を指定し、「OK」を選択します。
 ※IHS、WAS別サーバである場合は、SSLを使用する事をお勧めします。







• 「プラグイン・プロパティー」を選択します。

🗿 Integrated Solutions Console – Microsoft Interne	et Explorer	_ 8 ×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	へルプ任)	
🔇 戻る 🔹 🕤 👻 😰 🐔 🔎 検索 👷 お気に入り	🛛 😥 😓 🔤	
アドレス(1)) 🙋 https://esso81:9043/ibm/console/login.do?ad	ction=secure	Note Note Note Note Note Note Note Note
Integrated Solutions Console ようこそ wasadmin	ヘルプ ログアウト	TEM.
表示: すべてのタスク 🔽	セル=esso81Node01Cell、プロファイル=AppSrv01	ベージを閉じる
= ようこそ	Web サーバー 2 -	ヘルブー
田 ガイド付きアクティビティー	<u>Web サーバー</u> > webserver1	フィールドのヘルブ
ロサーバー	ニーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	フィールドのヘルフ情報を表示 するには、ヘルプ・カーソル(?
日サーバー・タイプ	ランタイム 構成	マーク) が表示されているとき に、フィールド・ラベルかりスト・
 WebSphere Application Server WebSphere MQ the US 		マーカーを選択します。
 Websphere Mg 5 - / (- Web サーバー 		ページのヘルブ
	<u>一家プロハリオー</u> wab サーバータ	報
国 アフリク ニション	Web サーバー仮想ホスト Webserver1	コマンド支援
	<u>917</u>	最後のアクションの管理スクリ プトを表示
	IBM HTTP Server 道加プロパティー	
日環境		
ヨシステム管理	■ <u>プラグイン・プロバティー</u>	
国 ユーザーおよびグループ	* 小 80 Uモート Web サーバー管理	
田 モニターおよびチューニング	* web サーバーのインストール・ロケーション = カスタム・プロパティー	
田トラブルシューティング	C:/IBM/HTTPServer	
田 サービス統合	* 構成ファイル名	
⊞ UDDI	C:\IBM\HTTPServer\conf\httpd.conf 編集	
	* サービス名	
	IBMHT PServer /.U	
	ブラットフォーム・タイブ Windows	
	通用 OK リセット 取り消し	
		🗎 🕑 1言釈)済みサイト





• 「Webサーバー鍵ストア・ディレクトリーヘコピー」を選択します。







• 「構成ファイル」を選択します。







• 以下画面で、次ページの内容を追記します。

-

🚰 Integrated Solutions Console – Microsoft Internet	Explorer	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	ヘルプ(生)	27
🔇 戻る 🔹 🕤 👻 😰 🏠 🔎 検索 👷 お気に入り 🍕) 😥 🕹 🖻	
アドレス(D) 🍯 https://esso81:9043/ibm/console/login.do?acti	on=secure	Note: N
Integrated Solutions Console ようこそ wasadmin	ヘルブ ログアウト	IEM.
 表示: すべてのタスク ようこそ Bガイド付きアクティビティー Bサーバー Bサーバー Bサーバー WebSphere Application Server WebSphere MQ サーバー Web サーバー Bアブリケーション Bサービス Bリンース Bセキュリティー B環境 Bンステム管理 Bユーザーおよびグルーブ Bモニターおよびグルーブ Bモニターおよびグルーブ Bモニターおよびチューニング Bサービス B リDDI 	<pre># error log. No records are written while the server is idle. LoadModule mpmstats_module modules/debug/mod_mpmstats.so <lfmodule mod_mpmstats.c=""> # Write a record every 10 minutes (if server isn't idle). # Recordmendation: Lower this interval to 60 seconds, which will # result in the error log growing faster but with more accurate # information about server load. ReportInterval 600 # Indude details of active module in the statistics. TrackModules On # mod_net_trace will record actual data sent/received from the client # and on proxy connections, even for SSL connections. Unlike an IP # trace, interaction with the platform network APIs can be seen. # The following example configuration can be activated by uncommenting # the LoadModule directive. # LoadModule net_trace.module modules/debug/mod_net_trace.so <lfmodule mod_net_trace.c=""> NetTrace file logs/inetTrace.log NetTrace file logs/inetTrace.log NetTrace file logs/inetTrace.log NetTrace file vent senddata=65535 event recvdata=65535 LoadModule was_ap22_module "C:\IBM\HTTPServer\Plugins\tonfig\webserver1\plugin-cfg.xml" LoadModule im_ssl_module modules/mod_ibm_ssl.so Listen 0.0.0.0.43 ## TPV6 support: #Listen 1::]:443 </lfmodule></lfmodule></pre>	ヘルプ フィールドのヘルブ フィールドのヘルブ するコネ、ヘルブ・カーツル(? マーク)が表示されていたどき レイールド・マークンが表示されていたどき マーカーを選択します。 ページのヘルブ このページ1こうしての詳細情 通
🕙 ページが表示されました		🔤 🕑 信頼済みサイト





LoadModule ibm_ssl_module modules/mod_ibm_ssl.so Listen 0.0.0.0:443 ## IPv6 support: #Listen [::]:443 <VirtualHost *:443> SSLEnable SSLProtocolDisable SSLv2 SSLServerCert <alias of the IBM HTTP Server SSL certificate> </VirtualHost> KeyFile ''<absolute path of the plugin-key.kdb file>'' SSLDisable

• <alias of the IBM HTTP Server SSL certificate>:

– default

- <absolute path of the plugin-key.kdb file>:
 - <IHSインストール先>¥Plugins¥config¥<サーバ名>¥plugin-key.kdb



IMS Server Configration

• https://<imsserver>/ims/にアクセスし、構成ウィザードを起動。

🚰 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explore	r		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘ	ルプ(円)		🥂
🔇 戻る 🔹 🕥 👻 😰 🐔 🔎 検索 👷 お気に入り 🔗	۵- 🎍 🚍		
アドレス(D) 🍯 https://esso81/front/faces/app/index.xhtml?_flow	vId=configure-was-ds		Note: N
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On			IBM. 🍯
		言語: 日本語	
т	AM E-SSO: 構成ウィザード		
- - 	幕成のインボート 511 MS インストールから構成をインボートするかどうかを選択します。		
	ાતાત્રં		
	Olitu		
-			
		開設台	
🖲 ページが表示されました			





• 以下の画面でデータ・ソース情報を入力し、「次へ」進みます。

🚰 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explorer			
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)			
😋 戻る 🔹 🕥 🖌 😰 🐔 🔎 検索 👷 お気に入り 🔗 🍛 😓 📃			
アドレス(D) 🕘 https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/begin	xhtml		王 参 移動 リンク ※
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On			IBM. A
		言語: 日本語	
TAM E-SSO: 構成	えウィザード		
データ・ソ ー データ・ソー	ス 情報の入力 構成値を設定します。		
JDBC プロパイイ TAM E-SSO JI	ダー名: IBC Provider		
データ·ソース TAME-SSOIM	名: S Server Data Source		
JNU 25: jdbc/ims			
JAAS - J2C IZ imsauthdata	証データ別名:		
キャンセスル		戻る 次へ	
			-
(●) ページが表示されました			



• 以下の画面でIMSデータベーススキーマの作成を指定し、「次へ」進みま す。

🚳 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explor	er	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	<−、ことで、	🥂 🕺 🖉
🔇 戻る 🔹 🕥 🖌 📓 🚷 🔎 検索 👷 お気に入り 🧔		
アドレス(1)) 🕘 https://esso81/front/faces/app/wizards/config	ureWasDs/dataSource.xhtml	💌 🄁 移動 リンク 🎽
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On		IBM
	言語:日本語 ▼	
	TAME-SSO: 構成ウィザード	
	IMS データペース・スキーマの作成 このウィザードを使用して IMS Server のデータペース・スキーマを作成する場合は、チェック・ボックスにマークを付けま す。	
	✓ MS Server のデータベース・スキーマを作成する。	
	キャンセル 戻る 次へ	
I ページが表示されました		▲

2.0



• 以下の画面でDB2サーバを選択し、「次へ」進みます。

🚈 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Expl	orer		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	ヘルプ(圧)		🥂
🔇 戻る 🔹 💿 🔹 😰 🏠 🔎 検索 👷 お気に入り 🤞	8 🔊 🕹 🖃		
アドレス(D) 🕘 https://esso81/front/faces/app/wizards/conf	igureWasDs/createImsDbSchema.xhtml		Note: N
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-Or	1		IBM. 🗧
		言語: 日本語	
	TAM E-SSO: 構成ウィザード		
	テージュース・ショフクリ連択 MS Server で使用するデータベーフ・タイプを遅択します。		
	C Microsoft SQL Server		
	C Oracle サーバー		
	キャンセル	戻る次へ	
			v
ページが表示されました			📄 🖉 信頼済みサイト





• 以下の画面で事前に作成した「imsdb」を指定し、「次へ」進みます。

🚈 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explorer		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)		🦧
😮 戻る 🔹 🕘 💉 😰 🟠 🔎 検索 🧙 お気に入り 🔗 🎯 🍡 🍃		
アドレス(1) (2) https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/chooseDatabaseType.xhtml		秋動 リンク ※
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On		IBM. 🎽
	言語: ┃日本語	
TAM E-SSO: 構成ウィザード		
データベース構成 - DB2 データベースの構成情報を指定します。		
ホスト名:		
esso81		
ポート:		
テーダペース治: limsdb		
ユーザー名:		
db2admin		
ユーザー・パスワード:		

キャンセンル	戻る 次へ	
ご ページが表示されました		





• 以下の画面でルートCA詳細を指定し、「次へ」進みます。

🚰 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Exp	lorer		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	ヘルプ(圧)		🥂 🕺
🔇 戻る 🔹 💿 🔹 👔 🏠 🔎 検索 👷 お気に入り 🕔	🐵 🔝 😓		
アドレス(D) 🍯 https://esso81/front/faces/app/wizards/con	nfigureWasDs/dbConfigDb2.xhtr	ป	Name - Name
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-0)n		IBM. 🍯
		言語: 日本語	
	TAM E-SSO: 構成ウィザード		
	■ ――ト CA 詳細の指	÷	
	MS Server 中間 CA の署名	AC E使用されるルート CA の鍵ストア名、パスワード、および証明書別名を入力します。	
	鍵ストア名:	NodeDefaultRootStore	
	鍵ストア・バスワード:	•••••	
	山ートでも別名	root	
		1004	
	キャンセル		
	115 00		
 ▲) ページがま干されました			▼
			」 」 」 」 」 」 」 IEAR/用の 91 P



• 以下の画面でIMS ServerのURLを指定し、「次へ」進みます。

🚈 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explorer				
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ	(H)			
🔇 戻る 🔹 💿 🕗 😰 🐔 🔎 検索 ☆ お気に入り 🤣 🖉)• 🖕 🕞			
アドレス(D) 🍯 https://esso81/front/faces/app/wizards/configureCe	ertAndPort/collectRootCaInfo.xh	tml		永動 リンク ※
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On				IBM. 🖻
		言語.)	日本語	
TAM	E-SSO: 構成ウィザード			
IMS	い サービス URL の構成			
Acce	ssAssistant が IMS Server Iこ接続	・ 売するIコよ、IMS Server サービスの URL が必要です。		
		-		
V V	Veb サーバーの完全修飾名:	esso81		
н	ITTPS ポート番号:	443		
	キャンセル		戻る 次へ	
				•
(を) ページが表示されました				□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □





• 以下の画面が表示されます。「保存」をクリックします。

🚈 TAM E-SSO IMS Server – Microsoft Internet Explo	rer	_ 8 ×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T)	ヘルプ(生)	
🔇 戻る 🔹 🕤 👻 😰 🏠 🔎 検索 🌧 お気に入り 🍕) 😥 😓 🖂	
アドレス(D) 🍯 https://esso81/front/faces/app/wizards/confi	gureCertAndPort/imsUrLxhtml	💌 🔁 移動 リンク 🎽
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On		IBM.
	言語: 日本語 _	
	TAM E-SSO: 構成ウィザード	
	設定の確認 以下の設定が適用されます。次のステップに進む前に設定を確認してください。設定が正しい場合は、「保存」をクリック します。	
	 TAM E-SSO IMS Server Data Source ✓ JNDI 名: jdbc/ms ✓ ルート CA 詳細の指定 ・ 建ストア名: NodeDefaultRootStore ・ ルート CA 影ね: root 	
	キャンセル 戻る 保存	
(ビージが表示されました)		▽ (言頼済みサイト



• 以下の画面で示された、IMS Serverを再起動します。

🚰 TAM E-SSO IMS Server - Microsoft Internet Explorer		_ 8 ×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(D) ヘルプ(H)		
🔇 戻る 🔹 🕥 🔹 😰 🐔 🔎 検索 👷 お気に入り 🧔) 🔗 🐉 🖻	
アドレス(D) 🥘 https://esso81/front/faces/app/wizards/configureWasDs/confirm.xhtml		予 移動 リンク ※
Tivoli. Access Manager for Enterprise Single Sign-On		IBM. 🖻
	言語: 日本語]
	TAM E-SSO: 構成ウィザード	
	データ・ソースおよび証明書ストアのセットアップ完了 データ・ソースおよび証明書ストアは正常にセットアップされました。	
	 変更を有効にするために、Websphere 管理コンソールから IMS Server を再始動してください。	_
		-
」 ページが表示されました		「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」




構成ユーティリティへの初回ログイン

• wasadmin(WebSphere管理ユーザでログイン)します。

https://esso81/front/faces/app	o/index.xhtml – Microsoft Internet Explorer		
ファイル(E) 編集(E) 表示(⊻) お気(a	ファーイル(P) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(D) ヘルプ(H) 🥂 🧤		
🔇 戻る 🔹 🕘 🕤 🔝 😰 🐔 🔎 検知	索 🧙 හිතුයටහ 🐵 😥 😓		
アドレス型 🍯 https://esso81/front/faces/app/index.xhtml		秋動 リンク ※	
Tivoli, Access Manager for Enterprise Single Sign-On		IBM. ⁻	
日本語	TAM E-SSO IMS Server へようこそ。		
AccessAdmin			
IMS 構成ユーティリティー			
AccessAssistant			
VVeb VVorkplace			
		_	
一 パジャーズ わました		▼ (##E\\\\\	
◎ ペーンが表示されました			





OS起動時エラー対策

• IHS 7.0導入後出力されるドライバエラー解消方法は以下となります。

システム スタートアップの最中、少なくとも 1 つのサービスまたはドライ、 イベント ログを参照してください。	バにエラーが発生しました。詳細はイベント ビューアの
ОК	イベントのプロパティ
	 イベント 日付(A): 2009/12/04 ソース(S): Service Control Manager 時刻(M): 2:36:28 分類(R): なし 種類(E): エラー イベント ID (Q): 7000 ユーザー(U): N/A コンピュータ(Q): ESSO81 説明(Q): afpa サービスは次のエラーのため開始できませんでした: 指定されたファイルが見つかりません。 詳細な情報は、http://go.microsoft.com/fwlink/events.asp の[ヘルプとサポート センター] を参照してください。
	データ(①) ⑥ / ティ ト (B) ೧ ワード(W)





「スタート」ー「プログラム」ー「アクセサリ」ー「コマンドプロンプト」のメニューからコマンドウィンドウを起動します。

以下の手順に従いドライバ定義を削除し、Windowsを再起動します。

C:¥>cd C:¥IBM¥HTTPServer¥bin

C:¥IBM¥HTTPServer¥bin¥>AfpaCmd.exe -u

C:¥IBM¥HTTPServer¥bin¥>

